

【月刊】

# キャッチピース

# 140

通巻217号  
06/11/20



11月23日の辺野古。座り込み949日目。

## 特集「米軍再編とのたたかい：神奈川」

- ヨコスカ 原子力空母母港化の是非を問う  
— 市民の会HPより
- 動き出した池子住宅地区の横浜市域への追加建設 … 木元 茂夫
- 米軍ヘリコプターによる座間周辺でのヘリ騒音 … 金子豊貴男
- 相模補給廠への“人間の鎖”行動に1800人 … 沢田 政司
- トウキョウからオキナワから … 太田 武二
- オキナワの基地の一ヶ月 … 皆川みず糸

今月の一枚

### ●POLITACAL CARTOONS

## لا الحرب، لا الاحتلال!

No war, no occupation!



編集発行人●脱軍備ネットワーク・キャッチピース

●維持会員（月額）個人1口1000円 団体1口2000円 ●参加会員（月額）個人1口500円 団体1口1000円

●通信会員（年額）1口3000円

（会費には本紙購読料が含まれます）

## ヨコスカ

# 原子力空母母港化の是非を問う

## 住民投票条例の制定を求める署名運動

### 署名数 5000 人を突破

市民の会 HP より

### 俳優の窪塚洋介さんも含め

### 2000 人を超える受任者

前号でお知らせした横須賀の署名運動。「原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会」は、11月24日現在、署名数は5,000人を超えた。直接請求に必要な署名数は7,112人（有権者の50分の1）。署名期間（11月10日から12月10日）の半ばでの数字は、この呼びかけが確実に市民の間に浸透していることを示している。署名を集める受任者だけで2,036人が登録されている。この中には、横須賀在住の俳優・窪塚洋介さんも含まれている。窪塚さんは、11月22日に署名をするために事務所を訪れ、その場で受任者になることも了承してくれたという。



「市民の会」：<http://www.pasopit.co.jp/cvn/> TEL046-827-2713 FAX046-827-2731

○街頭署名や個別訪問が連日展開されている。今後の大きな街頭署名の予定は次のとおり：

12月3日午後1時から、京浜急行横須賀中央駅・Yデッキで。

12月9日午後2時から、京浜急行追浜、汐入、中央、堀の内、浦賀、北久里浜、久里浜駅、JRの衣笠駅の8駅で一斉署名活動が予定されている。

街頭署名集めは、誰でも参加できる（横須賀市民である必要はない）。ぜひ、時間を作って応援に行こう！

○署名用紙の発送や集約など事務仕事も沢山ある。成功させる会の事務所助っ人志願の方は「住民投票を成功させる会」（京浜急行横須賀中央駅平坂モアーズ側たこやきやの2階。046-828-4331）または

は「市民の会」にご連絡を！

○お金も沢山必要だ、96人の市民の呼びかけ（キャッチピースのメンバーも加わっている）で「ヨコスカ住民投票を支援する市民基金」が発足、カンパを呼びかけている。一口1,000円、目標額100万円。振込み用紙つきのチラシを同封した。ご協力を！

郵便振替 00200-2-43314 「ヨコスカ住民投票を支援する市民基金」

電話 045-788-0838

e-mail yokosuka\_shiminkikin@hotmail.co.jp

外務省の「安全性」パンフは  
説明責任に一切答えていない

外務省は、11月半ば「米海軍の原子力艦の安全性」と題したパンフレットを作成し、ウェブサイトに掲載するとともに横須賀市内を中心に配布を始めた。

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/pamph/usa\\_kaigun.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/pub/pamph/usa_kaigun.html)

だが、これは安全性に対する市民の不安にほとんど何もこたえることなく、「安全だから安全である」という人を欺く論調で埋め尽くされている。パンフは6つのQ&Aで構成されている。

Q1 米海軍の原子力艦はどういう船？

A1 原子力を推進力とする米海軍の軍艦で、現在83隻（空母10隻、潜水艦72隻、調査船1隻）が運航しています。

Q2：原子力艦の原子炉は安全で頑丈というのは本当？

A2：本当です。

Q3：核兵器を持ち込むの？

A3：持ち込むことはありません

Q4：原子力空母によって環境が放射能で汚染される？

A4：そのようなことはありません。

Q5：原子炉の事故は一度もおこっていないって本当？

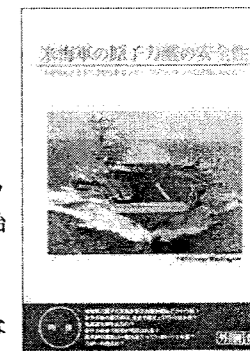
A5：本当です。

Q6：万一の場合の備えは？

A6：日本国政府は、国民の安全と安心のために、あらゆる事態に備えるとの観点から、米国や、地元の自治体と連携して、しっかり取り組んでいきます。

ここでは、以上のロジックにひとつひとつ反論することはしない。横須賀市民は、外務省より先にはずっと明快で、内容のあるパンフレットを配布している。これを是非読んでほしい。「市民の会」に問い合わせれば入手できる。

外務省の「安全宣言」は、米海軍の説明を根拠を掘り下げないまま上面をなぞっただけのものだ。横須賀市民をこんな説明で納得させることが可能だと考えるならば、外務省の「民主主義感覚」はどうかしている。  
(田巻一彦)

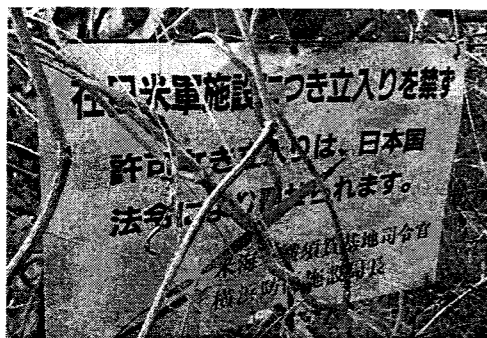


# 動き出した池子住宅地区の 横浜市域への追加建設

すべての基地に「No!」を・ファイト神奈川

木元 茂夫

●写真 住宅建設予定地の「立入禁止の看板」と測量記号が書かれた旧日本海軍の標識



2004年9月に横浜市が受け入れた池子住宅地区の追加建設。建設予定地は、京急逗子線の六浦駅と神武寺駅の間、横浜横須賀道路が京浜急行の線路を横切るあたりである。昨年1月のファイト・神奈川が呼びかけたハイキング以来、何度かここに足を運んだ。2005年度には測量調査が行われた。3月に歩いた時、真新しいピンクのリボン、新しい測量用の杭が何本も打ち込まれ、横浜市の境界標識も新設されていた。

「年度明け早々に建設プランが出てくるだろう」と待ち構えていたが、4月、5月、6月、と何も出てこなかった。何か不都合が起きたのだろうか、6月の時点で疑ったのは次の2点、①土地が狭く、改編面積1/2以下という横浜市の要求を満たして、700戸の住宅を建てるのは設計上無理であることが、測量をやってみたら明らかになったこと。②測量調査の時点で、旧日本海軍時代の毒ガス弾などが埋設されている徴候が出てきたか? 建設予定地は第2海軍航空廠横須賀補給工場などのあったところで、戦後61年間、時の流れが止まっている場所である。アジア太平洋戦争の最中に建設された弾薬製造所の建物は61年間の風雪によって痛みはしたが、そのまま残っている。そして土中には何が埋まっているかわからないところである。

しかし、この二つは私の主観的思い込みだったようである。「建設プランを長いこと市民に見せたくない」というのが、横浜防衛施設局の本音ではないかと私は推測する。8月17日、来年度予算の概算請求はすでに終わったと思われる頃、横浜防衛施設局は一年数か月の検討を経て、「池子住宅地区及び海軍補助施設（横浜市域）における家族住宅等の基本配置計画案」を横浜市に提出した。横浜市は、これをただちに市のホームページに掲載した。しかし、情報公開はそこまで。その後、横浜市は、市民への積極的な説明は何もやっていない。

一ヶ月後の9月21日、金沢区米軍施設建設・返還跡地利用対策協議会（会長・横井正巳）が、横浜市に対する要望書を提出した。この協議会は、横浜市の追加建設受入れを契機に、長年、池子弾薬庫跡地の全面返還を求め続けてきた「池子（横浜市分）接収地返還促進金沢区民協議会」（会長・横井正巳）から分離するような形で、2004年12月に発足した。今回の要望書は、①緑の保全②道路交通問題③

建物の高さ④住民への計画周知⑤飛び地の早期返還と跡地利用への全面的な協力と、これまで横浜市が国に要望してきた内容とまったく同一の、何の新鮮味もない要望書である。

しかし、協議会としても「配置案のみでは、検討材料に乏しく、現段階で全ての要望をまとめることは困難です。この問題はスタートしたばかりであり、今後周辺住民をはじめ区民からさまざまな意見が出されるものと認識しております」と要望書の冒頭に記さざるをえなかった。

この要望書を受けて、横浜市は10月2日、横浜防衛施設局に対して要請書を出した。8月からの2ヶ月間の動きを見れば、横浜防衛施設局が景観の変貌など大きな変化を巧妙に覆い隠した「基本計画案」を横浜市に提出→住民意見の集約の担当されている金沢区米軍施設建設・返還跡地利用対策協議会が形ばかりの要望書を提出→これに基づいて横浜市が国に要請という形で、基本配置図に承認をあたえようとしているのである。これは2005年3月に提出された「横浜市住宅建設対策プロジェクト第一次報告書」に、横浜市自らが記した、「基本的な構想を示す「開発構想書」については、説明会の開催や、住民による国への意見提出が行われる」というラインからも大幅に後退したやり方である。住民に対する説明会は何ら開催されず、住民は住宅建設について、ほとんど情報をもたないまま、町内会を通じた意見集約に答えざるを得ないのが現状なのである。

これは、国のペースに横浜市が完全に乗せられてしまっていること。横浜市は住宅工事そのものよりも、国の補助金をえて横浜から逗子へ抜ける横浜逗子線の拡幅を実現したいと考えているようである。

この2ヶ月で、池子の追加建設は大きく動き出した。いまこそ、横浜防衛施設局と横浜市に「基本配置計画」に対する真っ向からの反対意見をぶつけるときである。

（逗子市の提訴した1994年の追加建設はしないと約束した三者合意の履行を求めた「池子の森訴訟」は9月28日から東京高裁で審理がはじまったが、東京高裁は、国と逗子市の協議を行った後、11月28日に結審との方針を打ち出した）

●写真 建設予定地の旧海軍弾薬庫時代の中央通路。この通路の両側の谷合に、弾薬製造所の建物がいまま残る。中央の立ち木の向かいにある二つの丘は、「基本配置計画案」ではすべて削られることになっている。

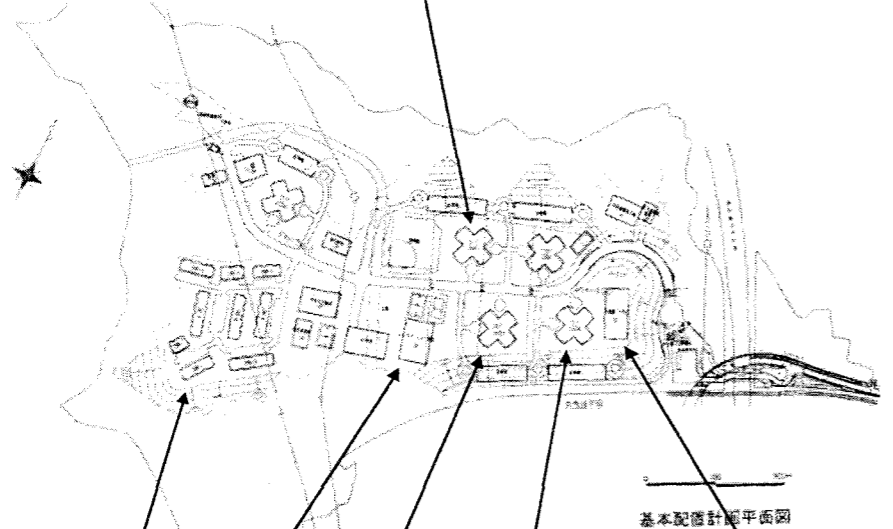


横浜防衛施設局が提示した基本配置計画案

8月17日2006年

- ①高層住宅は5棟 644戸
- ②低層住宅 9棟 56戸

15階建住宅(118戸)×2棟



低層住宅

レクリエーション施設

18階建住宅(142戸)

17階建住宅(133戸)

小学校/幼稚園



(木元 茂夫)

# 米軍ヘリコプターによる キャンプ座間周辺でのヘリ騒音



陸軍機に海軍機も加わる

相模原市・騒音記録計を設置 実態が詳らかに

第1軍団の移駐を歓迎しない会・事務局長  
相模原市議会議員 金子 豊貴男

在日米陸軍司令部のあるキャンプ座間、米本国・ワシントン州フォートルイスから米第1軍団司令部が移駐してくる計画に多くの市民・自治体が粘り強く反対運動を続ける中で、このほど、キャンプ座間の一番北側にあるヘリポート、キャスナー飛行場を使って、陸軍ヘリコプターだけでなく、厚木基地の艦載機である海軍ヘリコプターまでもがT&Gの訓練を行なっていることが明らかになった。相模原市はキャンプ座間のヘリコプター騒音問題を重視して、9月末にヘリポート近くの自治会集会所屋上に設置、基地の強化に反対する、自治体と市民の活動を報告する。

キャンプ座間の一番北側にあるのがキャスナー飛行場と呼ばれているヘリコプター基地で米陸軍第78航空大隊が配備されている。在日米陸軍司令部付の専用ヘリポートとして5機のヘリ、シコルスキーUH60Aブラックホークが配備され、管制塔も数年前に新しく建替えられている。

配備の5機のヘリを中心にヘリポートを使って離発着やT&Gの訓練が行われるため、地域では騒音被害がかねてより問題になっていた。議会でもこの問題を何回か取り上げ、騒音被害対策を市に迫ってきた。

9月に入り、恵理の騒音が激化、市民からの苦情がたくさん相模原市渉外課に寄せられた。以下は市渉外課が記者発表した苦情の内容。

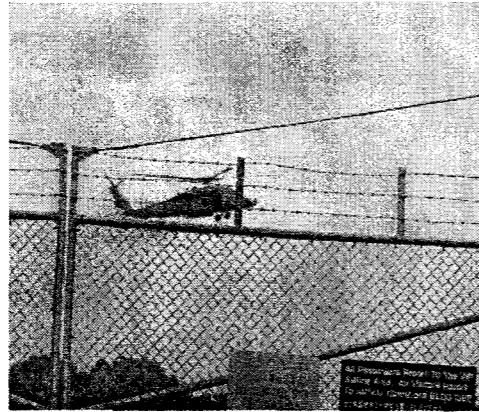
## 1 【苦情の分類】

- 団欒、勉強、業務、睡眠妨害
- 乳幼児、高齢者、療養者の苦痛
- 不快・圧迫・イライラ感、頭痛、情緒不安定
- TVが聞こえない、画像の乱れ、電話妨害
- 風圧、建具の振動
- 低空、旋回飛行
- 編隊飛行
- 夜間、深夜に及ぶ飛行
- 飛行間隔
- 墜落の恐怖・不安
- 情報不足
- 防音工事区域への指定

2 【ヘリ飛行による影響の特性】

ジェット機と比較すると、

- ①極めて低空を飛行するため、騒音の激しさに加え、建具の振動など風圧の影響を直接受ける。墜落の恐怖感、不安感も募る。
- ②飛行スピードが遅いため、騒音の持続時間が長く、しかも低周波音であるため、不快感、イライラ感を訴える人が多い。
- ③旋回飛行が続いた場合、周期的、又は間歇的に襲ってくるため、苦痛の度合いは著しい。  
(具体的な苦情は紙面の都合でここでは割愛しますが、監視団ニュース06年11月号に全文掲載されているのでぜひそちらを読んで下さい。)



【写真1】

相模原市が騒音記録計設置

こうした騒音被害と苦情に対して相模原市はヘリポート近くに勝坂コミュニティーセンターの屋上に騒音記録計を設置し、9月29日から運用を開始した。座間のヘリの騒音状況をリアルタイムで記録し、被害解消に役立てようというもの。先日この騒音記録計のデータが公開された。(巻末の表を参照)

データを見てみたが、一日に何回か70から80dB以上の騒音が記録されている。ヘリの80dBというのはかなり威圧感のあるうるさい音で、この騒音の下で暮らすのは市民にとっては苦痛だ。市に寄せられ苦情に具体的な市民の苦悩が、被害実態が見える。こうした情報の積極的な提供(記者発表や市民協の資料として添付など)は市民の基地による具体的な被害を提示することで有意義な取り組みであり、評価したい。

海軍ヘリのキャンプ座間での訓練

キャンプ座間のヘリコプターのもう一つの問題は最近また、厚木基地所属(空母キティホーク艦載機)の海軍ヘリが座間でT&Gの訓練を行っていること。その実態が写真で撮れ(写真1)、10月5日、市議会基地対策特別委員会のキャンプ座間視察でも確認された。78飛行大隊のFLOERS副大隊長・少佐との説明と質問に対する回答で、座間のヘリの訓練は離陸は北側、麻溝公園のグリーンタワーや南清掃の煙突を目標に飛び左旋回してもどる、高度は304m以上で他の基地の訓練高度より50m高くして騒音被害に配慮している。座間のヘリポートを使うのは陸軍と空軍、海軍であり、自衛隊もたまに使用しているとの事。厚木基地の海軍ヘリコプターはジェット機と一緒にヘリの訓練は危なくて出来ないためキャンプ座間も使用しているとの事であり、視察直後の正午過ぎにも厚木基地から1機海軍のヘリコプターが来て訓練を始めた。(写真2)丁度、管制塔の視察中に連絡が入り、管制官が座間に来るのをちょっと待々と指示していた。



【写真2】

いずれにしてもキャンプ座間のヘリポートを使って厚木基地の海軍のヘリコプターが訓練を繰り返していることがはっきりしたわけで、この点今後、キチンと抗議や取り組みをしなければならないと思っている。

キャンプ座間周辺地域に設置したヘリコプター騒音計の測定結果について(速報)

- (1) 設置場所  
市内磯部 2103番地 勝坂コミュニティセンター(自治会集会所)
- (2) 設置及び運用開始日  
設置日 平成18年9月29日(金)  
運用開始日 平成18年10月1日(日)
- (3) 測定結果 10月1日～10月31日(日)

項目		数値	備考
記録があった日数		29日	
記録された時間帯		05時55分 ～23時46分	
音の大きさ	最高音	91.2dB (10月19日)	(音の大きさの目安) 100dB: 電車通過時の線路わき 90dB: 交通量の多い交差点 80dB: 電車の中 70dB: 電話のベル(1m) 60dB: 一般の事務所内
	測定回数 の分類	60dB台	235回
		70dB台	277回
		80dB台	114回
		90dB台	1回
測定回数	測定回数	627回	65dB以上の音が5秒以上続いた回数
	最多測定回数	17回	1時間あたりの最多測定回数
	10回以上測定回数	12回	1時間中に10回以上測定した回数
W値 (うるささ指数)	最高	73.2W (10月5日)	「航空機騒音に係る環境基準について」 (環境省告示)の基準単位。
	平均	65.1W	
	環境基準70Wを超えた日数	2日 (10月5、19日)	
市に寄せられた苦情件数		21件 (10月5、12、19日 各4件)	

(かねこ ときお)

# 相模補給廠への “人間の鎖” 行動

沢田政司 (相模補給廠監視団)

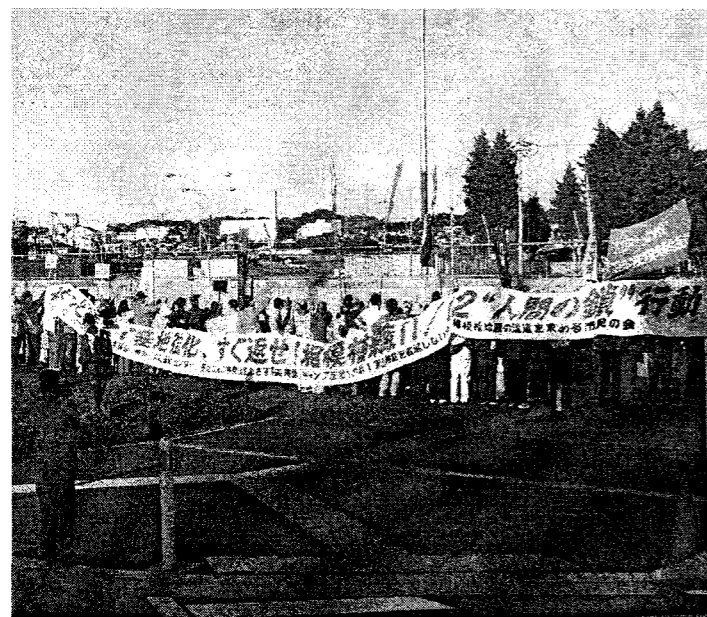
## に 1800 人!

「在日米陸軍司令部の改編に伴い、戦闘指揮訓練センターその他の支援施設が、米国資金で相模総合補給廠内に建設される」。これは5月1日に日米合意した「再編実施のための日米ロードマップ」に記された一節。続けて「効率的かつ効果的な運用のため」として、相模補給廠の一部返還(17ヘクタール)なども合意された。

「基地の下で70年。もう我慢の限界」と頑張る相模原市に、アメとムチで「日米合意」の受け入れを迫るという算段だ。しかも、「一部返還」とは日本国への返還であり、相模原市がその土地を取得するためには、その国に3~400億円を支払わなければならないのである。70年前の軍国主義時代に、半ば強制的に買い上げた土地を、今度は高額で地元市に買わせるやり方には、どうしても合点がいかない。



前述の「日米合意」は、キャンプ座間に改編された米陸軍新司令部と陸自中央即応集団司令部を設置するとしている。一昨年来、私たちも加わる「基地撤去をめざす県央共闘」などは繰り返し、そのキャンプ座間への抗議行動を繰り返してきた。連月のデモ行進、二度にわたる司令部包囲行動、ゲートの近くでの座り込み行動等々。今回の“人間の鎖”行動も、この延長線上で取り組まれた。



キャンプ座間と相模補給廠はメダルの裏表、一心同体の関係にある。だから、ここも“包囲”しよう…。11月12日当日は雲一つない晴天の一日。集会が始まってからも人々の列が続き、参加者は予想を上回って1800人以上。フェンス沿いのデモ行進の後、花火を合図に3回手をつなぎ、“人間の鎖”を完成させた。ひとまずは成功したが、日米軍事再編-基地強化を止めるには、もっと大きな“人間の鎖”が必要。前途は洋々というより多難という雲行きだが、“倦まず弛まず”を心がけたいと思うのだ。

(さわだ まさじ)



1月19日訓練再開のF15 戦闘機 (リムピース提供)

### 私にとっての不幸記念日

人生を重ねる中で、一つでも大きな不幸が起こった日は、その人にとって忘れることのできない不幸記念日となるはず。ところが去る11月19日という日は、まるで悪魔に呪われたかのような最悪の出来事がいくつも重なって私に降りかかってきたのです。きっと死ぬまで忘れることはないと言っても過言ではない出来事が相次ぎ、肉体的にも精神的にも落ち込んでいました。最も大きいのが今回のテーマである糸数慶子さんの沖縄県知事選挙での敗北でした。

それだけでも十二分にショックを受けていた私でしたが、それに加えて松戸の市議選で現職だった長年の友人が落選してしまったのです。これでダブルショック。そして、当日は朝から私が書記長をしている組合の定期大会だったのですが、何と本部方針案に対する動議が二本も通っただけでなく、「差別問題」への私の答弁に対する的外れで根拠のない野次、非難を受け上に反論する時間がないままに終わってしまったのです。これがトリプルショック。次に、同じ佐倉市民ということで

長年応援してきた高橋尚子さんまで3位とは言え負けてしまったのです。これでフォースショック。まだあります。実は当日、3人の孫の内二番目の子の七五三祝いだったのです。これに全く参加できなかったことも寂しく悔やまれる気分を助長して、フィフスショック。更にいよいよ最後のショックになります。その日の夜、琉球センターどうたっちに皆で集まりました。10人ほどの仲間が、沖縄と直接連絡を取り合いながら心一つにして票読み時間を過ごし、泡盛と料理も出て、勝利の美酒でお祝いをする予定だったのです。しかし、最後は涙の酒になって帰宅したのですが、気がついたら終点の成田駅まで終電を乗り過ぎてしまったのです。結局、近くの居酒屋で朝まで仮眠する羽目になって朝帰りだったのです。いわば六重苦を引きずって20日の月曜日、職場に出勤したのです。

### 気力を取り戻す

そんな訳で、さすがに月曜日から昨日にかけて書く気力が湧いてきませんでした。どうしても勝

ちたい！負けられない！と言う思いが強かっただけに正直いって落ち込みました。その後、後掲させてもらう人々のブログと出会い、特に、この選挙に命がけで取り組んでいた糸数さんやご家族、石川真生さんたちの文章を見て、私なりのけじめをつけなければいけないと反省しました。

私の人生の中で、今回ほど沖縄の仲間たちと一緒に主体的に取り組んだという実感ももてた選挙はありませんでした。首都圏ギリギリK運動として、大きかったのは「10.21沖縄県知事選挙勝利！マリーズコンサート」でした。当日は、土曜日の午後で各種行動が重なっていたにもかかわらず、参加人数は170名ほど。そして、マリーズバンドを初め出演してくれたグループのパワー溢れる演奏は感動的でした。そうした演奏を通して沖縄県知事選挙の勝利にける思いを強くアピールすることができたと思います。尚、今回特筆すべきだったのは「沖縄県知事選挙勝利」ということで、東京交運労協の仲間を初め渋谷、荒川区職労など組合関係の積極的な協力があつたことです。更に日韓ネットを初めとする市民運動や個人の方々の事前出資のお陰で実現できたコンサートでした。

その10.21コンサートを核にした形で、首都圏ギリギリK運動はかなり盛り上がりつつあります。琉球センターどうたちでの応援イベントや運動関係の集会イベントにも糸数慶子さんの写真、カンパ箱を持ち込み、中野駅頭を始め都内四力所での街頭カンパサンシンライブをし、選挙最終日の夜は、沖縄那覇での打ち上げコンサートに合わせて高円寺駅周辺での意気高揚としたサンシンライブと道ジュネーで勝利を目指し、勝ったような気分になっていたのです。

### 敗北が決まって

それだけに、当日の速報で敗北が決まった時は言葉では言い尽くせない悔しさが次々とこみ上げてきました。それは糸数さんの捨身の立候補と超人的な頑張りに応え切れなかった私たちの力不足を悔いるものでした。本当に申し訳ないという気持ちで拭き切れませんでした。

今回の選挙戦を通して感動したのは、何といっても糸数慶子さんの人間的な輝きと政治家として

の位の高さでした。参議院議員の職を投げ捨てて野党統一候補への推薦をギリギリ引き受けたことが凄いいことでした。その後一月半の短期決戦で、糸数さんの魅力によって沖縄御万人が立ち上がり、31万近くの票を獲得し、仲井真さんを37,000票ほどまでに追い込み、当日の出口調査では数ポイントリードまででした。まさに「いなぐや戦のさちパイ」うちないなぐの鏡・トップリーダーとして賞賛に値する闘いでした。

次回知事選挙での勝利は確実で、今回の敗北は多くの勝利の積み重ねに反する一つの結果に過ぎないと考えます。そして、今後の日米両政府が押し付けてくる新基地建設を阻止し軍事植民地からの独立を目指す闘いに大きな橋頭堡を築いたと確信しています。

### 選挙戦をふりかえる

沖縄県知事選前は「北朝鮮核問題」や安倍新総理の高支持率もあって自公推薦の仲井真が楽勝と見られていたのは周知のことでした。というのは野党候補者の選定過程が、対立したまま時間を費やし、ギリギリのところで糸数さんが担ぎ出された印象が強く、足並みが不ぞろいなだけでなく感情のしこりを残したままの状態が続いていたからです。更に最も厳しい条件として私が見ていたのは、沖縄における女性の独特な地位が県知事選挙には不利に作用するということでした。つまり琉球王朝時代の名残りというか儒教思想における男尊女卑の関係が沖縄には色濃く残っているということです。男性の琉球王を宗教的に支える女性の聞得大君という存在や「うない信仰」に見られる女性の社会的地位から言って、参議院議員には推薦しても沖縄県のトップに押すのは憚る文化風土が根強いということです。自公勢力に言わせれば、「テンポイントぐらいは空いていたんじゃないか」というぐらいの選挙情勢だったのです。

その後糸数さんの善戦によってその差がちじまって来た時に、突然降って湧いたように起こったのが自由連合の党首徳田毅の離党と自民党へのもぐりこみでした。この時期にそんなことが何の働きかけもなしに起こるわけがないのは常識です。そして、徳洲会の票取り込みを狙って中川幹事長が動いたというのが一部ジャーナリストの情報です。徳洲会は沖縄県内（沖縄、宮古、石垣島）



に16もの医療施設を持ち、その関係者をフル動員すると共に、鹿児島などから職員百数人を沖縄へ派遣した結果、最大影響力で7万人位、最低でも1万人は確実に票が動いたといわれています。期日前投票における仲井真陣営の圧勝状態は、単に創価学会だけでなく徳洲会医療関係の動員が大きかったということだったのです。

この裏の事実は、何も今回が初めてではありません。実は、8年前の県知事選挙の時には、当時の野中幹事長が公明党を革新統一戦線から離脱させるために、池田大作の国会喚問や学会への国税調査との取引を持ちかけたという噂がありました。その裏の真実は未だに表に出てはいませんが、大田知事を追い落とすためにはあらゆる手段を尽くすという選挙戦術にはめられ、公明党が自由投票という事実上の裏切り選挙をした結果、大田さんが敗北したのです。

今回も、当日投票数では糸数さんが勝っていたのです。それを期日前投票という制度を悪用した取り組みによって逆転されたというのが真実だということです。

### マスメディアは何を報道したか

しかしマスメディアは、こうした選挙戦に重大な影響を及ぼす動きには一切触れず、基地と経済の選択を前面に出していました。そして、選挙民の感心度は経済50%強に対し基地問題27%ぐらいと言う数字をひけらかし、仲井真候補の勝利の意味を、基地よりも経済振興を「沖縄県民」が選択したと強調したのです。

確かに糸数さんの主張として全面に出でていたのは辺野古への新基地建設を許さないという強い

決意でした。普天間基地の県外・国外移設を公約として明確に主張していました。しかし、だからといって糸数さんが経済の自立的発展を強調していなかったわけでは決してありません。逆に軍事基地や公共事業に頼らずに、自然の再生に関わる公共土木事業という発想や農業、漁業という第一次産業基盤にした産業の発展、自然環境を生かす観光事業の展開など魅力的な経済政策を公約としていたのです。それは、立候補に当たっての基本姿勢の第二番目に「沖縄の特性を生かし、基地に頼らない自立した産業・経済の進行に力を入れます。観光産業、地場産業、農・漁業及び中小企業の進行を図り、沖縄経済の足腰を強め、若者の雇用の場をまします。」としっかり表明されていたのです。

因みに一番目は米軍再編と基地問題、三番目は環境問題、四番目は憲法9条、そして、五番目に教育基本法の改悪反対という豊かな内容になっていました。このことと前述したマイナスからの出発という条件を合わせて考えれば、決して「沖縄県民」が基地問題よりも経済振興を積極的に選択したということはいえないと思います。というのは、二年前の参議院選挙の時に糸数さんが獲得した票とほぼ同じ数だったことから言えば、逆に沖縄御万人は、基地問題を重視したという判断に立つべきだと思います。

### 選挙戦でのりこえるべきこと

とはいっても確かに、この経済振興部分については時間が足りなかったという糸数さん本人の敗戦の弁が正直なところでしょう。しかし、このことは糸数さんの責任では全くありません。まさにギリギリのところで身を捨てる覚悟で出馬表明したのです。予め多くの時間を使って政策を公表し、ミーティングを小まめにこなすという常套手段は無理な状況だったのです。その責任は、野党を初め多くの反稲嶺陣営のリーダーたちが負うべきです。要するに、前回の県知事選挙で野党が分裂選挙となり大敗を喫した時点で今年に向けての戦略協議ぐらいしていなければ、県政に責任を持っている公党とは言えないと私は思います。

ましてや今回の場合は、春の段階から具体的な人選に入ってもお互いの腹の探りあいに留まり、

いよいよ夏になって時間切れが迫ってきてからは山内徳信さんと下地幹夫さん同士の対立が解けずにいたずらに時間を空費したという印象が強かったのです。悪いことには、こんなに反自公勢力がまとまらなくいとなれば、誰が県知事になってもまとまらないのではないかという雰囲気は沖縄御万人の間に広がっていたことです。

実は、その雰囲気が糸数慶子さん擁立となった時にも、マイナス効果として尾を引いたと思います。それに加えて山内さんを押ししていた友人たちの中にも不信感が芽生え、どうしても負けられない選挙であるにもかかわらず立ち上がりが遅れたということだったのです。

### 次回に期する

最後に大きな問題は今後への影響と私たちの運動展開です。糸数慶子さんの奮闘を私たちが引き継ぎ、この悔しさをバネにして自分たちの殻を突き破る闘いを作っていくべきでしょう。そして、反自公政権という明確な旗を押し立てて政治的に勝利する道を切り開くことが、糸数さんに対する申し訳なさの償いになることだと思います。

最悪な事態としては、安倍自公政権がこれをきっかけに攻勢に転じることと野党側が弱気になって妥協もしくは分裂状態になりかねないということです。既に教育基本法は成立したかのような新聞報道まで出てきています。しかし、米軍再編と新基地建設を沖縄御万人が容認したわけでは決してないということと闘う力が衰えたわけでもないということをはっきりさせましょう。そして、全国の平和勢力が安倍自公政権の戦争へ向かう動きになびく者ではないことを思い知らせな



ればいけません。

選挙と運動の弁証法的展開、運動のプラスバイラルによって、沖縄県知事選挙の敗北を私たち首都圏に生活するものの責任で国会を含む首都圏での運動を大きく広げていきましょう。

そして、来春に迫っている東京都知事選挙や自治体議員選挙に引き続く夏の参議院選挙で平和のための野党統一候補を各地で擁立し、安倍自公政権の倒閣運動に勝利しましょう。

有権者	1,036,743人	投票率	64.54%
	得票	得票率	
糸数慶子	309,985	46.7	
仲井 真	347,303	52.3	【当選】
屋良朝介	6,220	0.9	

### 最後に、個人ブログから

以下、私が読んだ個人ブログです。特に、下地さんと石川さんの中にある糸数慶子さんの娘の未希さんは、ギリギリKの会のブログ写真で見ても凄いです。

沖縄の若者がどうたらこうたらという記事や論評がある中で、今回多くの若者たちが糸数さんの側に立って頑張ったことを実証するのが、彼女です。

<大木 晴子>

不思議と涙がこぼれませんでした。票の差は小さかった。みんな、頑張ったもん!!

残念だし、悔しいし、希望の光もピカピカと光りませんがいろいろなかたちで組織や個が繋がって一つのことに力をあわせて頑張れた絆は残りました…確実に!!

諦めないで育みましょう…平和を!!  
背筋を伸ばして大きく深呼吸!!  
それぞれの生活の場で…平和を!!  
皆さん!!お疲れさまでした!!

<大西 照雄>

仲井真氏は、政府の方針ですぐ動く。V字反対も今日明日で変える。

政府は仲井真氏の性格をすべて読んでいる。だから、事務所を今日1日ですべて整理した。この新県政は占領期もなかった奴隷政権になる。沖縄

の歴史も、文化も、すべてを投げ捨てる県政だ。彼の一族は沖縄文化を身につけているが、彼はすべて「剣の文化」に自分の得意のサンシン文化を捧げる。それは、急速に早い。彼の生き方はサンシン奴隷文化としての文化論、誇りの文化論ではない。急速にヤマト政権のすべてを受け入れる。だから、私は急がない。仲井真氏は急ぐ。サンシンを弾く人だが、彼はサンシンの心を知らない。彼のサンシンはオキナワを混乱にさせるサンシンだ。サンシン文化と剣の文化は融合することはないのである。

<太田 昌秀秘書>

沖縄知事選挙がようやく終わりました。力及ばず大変残念な結果になりましたが、それでも久方ぶりに30万票台のご支持をいただきましたことはひとえに全国各地からの応援の賜物です。ありがとうございます。しっかりとした総括をして次こそはみなさまのご期待に添えるべく更に精進してまいります。重ね重ねみなさまのご支援に感謝申し上げます。

<下地 幹男>

私ども、政党「そうぞう」が推薦する糸数慶子氏は負けてしまいました。非常に残念であり、また、自らの力のなさを反省しております。強い政治家は、自分の選挙に勝つことはもちろんであります。応援する候補者をも勝たせる力がないといけません。

私にはその力がまだまだ足りないようで、もう一度、ゼロから仕切り直しをしなければなりません。しかし、「そうぞう」が描いている「保革の枠を越えて」という思いは、これからも変わることはないでしょう。

今回の選挙で、私どもの思いが「なぜ理解されなかったのか」を追究することが、この選挙結果から学ぶべき事であり。そのことを踏まえ、今日も、「そうぞう」の役員懇談会をしましたが、様々な意見が出され、皆で前向きに考えていくことを確認いたしました。

出た結果は尊重する。そして、その結果に対して、私たちは前向きに未来を描いていく。そんな人生観の中で政治をやってまいります。

睡眠時間4時間で20日間を駆け抜けただけに、今は、歩きながらでも眠ることができそうな感じ



です。私と一緒に10,000人の皆様と握手を交わした糸数慶子さんの娘さんは、本当に大したものでもあります。6ヶ月の乳飲み子が居ながらも、休まずがんばる姿に、感動を覚えられない人は居ないでしょう。様々な敗因がありますが、選挙は敗因の中にも必ず光明があるだけに、その光明は、次に活かすようにしていきたいと思います。

しかし、つかれました。がんばった皆さん、おつかれ様でありました。

<ギリギリKの会>

只今、夜中の3時前。「ギリギリKの会」で、みんなで残念会をしています。

沖縄県知事選は、30,000票余りの差で仲井真弘多さんの勝利で終わりました。

「ギリギリKの会」は「野党候補の一本化をめざす県民の会」の結成から2ヶ月余り突っ走ってきました。20歳から60代の老若男女が入れ替わり立ち代り参加してくれました。

昨日は開票が終わって、みんなガックリきて沈んでいるところに、糸数けいこさんの長女の未希さんがお礼を言いに来てくれました。

「精一杯やったので悔いがない」と言い切った未希さんの言葉に、みんなが救われました。未希さん、あんたはえらい!

未希さんが帰ると入れ替わりに糸数けいこさんが挨拶に来てくれました。「負けたけど、進む道は決まっているので、それに向って進んでいきましょう」と、けいこさん。

みなさん、けいこさんは最後に「ギリギリ!」のポーズをして帰りました。けいこさんは元気です!明日に向ってまた進みましょう!たくさん

応援、ありがとうございました。

<石川 真生 (11月22日)>

2ヶ月余りの選挙戦がやっと終わった。結果は私が応援した糸数けいこさんが落選。残念だけどしかたないわ。結果は結果だし、37,000票の差で負けた。

19日選挙当日の得票数では勝っていたけど、期日前投票数では圧倒的に負けていた。自民党・公明党の組織動員力に負けたってことだね。とりわけ、創価学会の動員力はすさまじい。恐るべし創価学会。

何よりも恐ろしかったのは、相手候補の仲井真弘多さんが会長をしている沖縄電力の動員力。配下の関連会社の社員も含めて、毎朝、あちこちの道路でシンボルの黄色い「なかいま」の旗を持って立っているのには、どひゃー!だったわ。

会社に出勤する前に動員されて、国道58号線をずらっと黄色い旗が長々と行けども行けども埋め尽くされているのにはビックリ仰天。疲れた社員の顔が気の毒になるぐらいだったわ。

朝だけじゃなく、会長が祭り会場を回るといっちゃー、それにも動員されていたし。ああ、恐るべし、宮仕え。動員を拒否して職を失ったらしかたないとはいえ、なんでここまでして会長の選挙のためにやらないといけなかったのか、電力の労働組合に聴いてみたいもんだわ。

でもまっ、私は初めての選挙運動だったけど、めいっばいやったし、悔いがないわ。明け方の4時、5時まで作業したこともあるし、いつも帰りは真夜中。テレビも新聞もろくに見れない日が続いたけど、いい経験だったわ。

おかげさまで、いかに革新政党が頼りにならないか、ということも分かったし。反基地運動をやっている人たちの中で、最後まで山内徳信さんじゃないからいやだと言って選挙運動をしなかった人が誰かもよく分かったし。これから彼らとどう付き合っていくか決めるのにいい機会だったわ、選挙って。

世の中は「市民運動をガンガンやる」と、「選挙で首長を代える」。運動と選挙の二本柱で政権を交代していくしかないかと悟ったわよ。どんなに運動しても、結局は首長をどんどん代えていかないと民主主義のこの世の中は変わらないわよ。

沖縄県民は知事に仲井真弘多さんを選んでしまったんだから、これから日本政府からいろんないやなことが押し付けられても文句が言えなくなるわよ。あー、恐ろしい。自分たちがどういう人を選んでしまったのか、思い知るしかないわ。

けいこさんは、本当によくがんばった。殺人的スケジュールの中でも、いつも明るい顔をして飛び回っていたし、とても59歳のおばさんには見えない。あの体力には何度も舌を巻いた。選挙に強い人なんだな、としみじみ思う。今はただただ、ご苦労さまでした、と言いたい。

開票日の19日はさすがに落ち込んでいたけど、私もう立ち直っています。グジグジしたってしかたないし。公約(?)した通り、選挙運動はもう2度とやろうとは思っていないわ。選挙の裏を知りすぎると、うんざりするばかりだし。

選挙の残務処理も昨日で終わったし、今日からは本来の自分の仕事に戻るだけよ。私には写真と文章で表現するという強い武器があるので、これからはガンガン自己主張していくわよ。

もちろん、今回の知事選の裏話も含めて、どこかでばらす(?)もんね。じゃないと、この沖縄はいつまでたっても「臭いものにはふた」で、よくなるわよ。誰かが言っていないと。さて、今回の私の最大の収穫はけいこさんの長女の糸数未希さんを知ったこと。彼女はすごい。「糸数けいこの娘です。よろしくお願ひします」という旗を持った下地幹郎衆議院議員を初め、政党・そうぞうと3週間もいっしょになって、母親のために大奮闘したもんね。

彼女は朝の5時半から夜中の12時まで、毎日毎日飛び回っていたわよ。詳しくはこのブログにリンクを貼っている、「ギリギリKの会」のブログを開いて見てね。私が写真を撮って載せているから。

琉球新報の連載締め切りは今日だよ。ひえー、なんも手をつけてないよ。でもやるしかないわ。がんばるべ。来年2月に奈良県のギャラリーで開催される個展用の写真も今月末には現像して送らないといけなし、休んでいるヒマなんてないわよ。ガンガン前に進むだけだわ。よっしゃ!

(おた たけじ)

# オキナワの基地の一ヶ月

## 2006年10月20日~11月18日

皆川みずる 編

●10月20日

主にヘリ基地として運用される普天間飛行場代替施設の建設計画(マスタープラン)で、米側が固定翼機の緊急着陸の際に用いる「アレスティング・ギア」(着陸拘束装置)の設置を検討していることが20日分かった。5月の最終報告(ロードマップ)には「米国政府は戦闘機を運用する計画を有していない」と明記。着陸拘束装置は、空母の甲板など滑走路の短い条件下で、ワイヤを使って戦闘機などを強制的に停止させる装置。緊急着陸に備え、嘉手納基地など陸上の滑走路にも設置されている。これについてケビン・メア在沖米国総領事は、米側に戦闘機の運用計画がないことを強調した上で「私たちが話し合っているのは、代替施設に万が一、緊急着陸することがある場合に備えて安全を確保するために必要な方策や設備のこと」と説明している。

●10月21日

パトリオット・ミサイル(PAC3)の米軍嘉手納基地と同弾薬庫内への強行配備に反対する県民大会(主催・平和運動センター、新嘉手納基地爆音訴訟団、普天間基地から爆音をなくす訴訟団、統一連、平和市民連絡会議、中部地区労)が21日午後、沖縄市野球場前広場で1200人(主催者発表)が参加して開かれた。

就任後初めて来県した高市早苗沖縄担当相は21日午後、那覇市で記者会見し、北部振興策と普天間飛行場移設問題に関して「全くリンクしないという表現は当てはまらない。…移設問題というのは全く進まないけど、北部振興というものは国で受けますよ、という形には残念ながらもならないと思っている」と述べ、北部振興策と普天間移設計画の進捗よく状況を関連付ける考えを明確に示した。

●10月24日

高市沖縄担当相は24日の記者会見で、米軍普天間飛行場の移設問題をめぐり「基地移設と北部振興の関連は否定できないが、内閣府としては県全体の均衡ある発展を図る上で北部振興自体も重要だ」と強調した。沖縄県訪問中の21日に、移設と振興策について「全くリンクしないという表現は当たらない」とした発言を軌道修正した。

●10月26日

久間章生防衛庁長官は26日午前の参院外交防衛委員会で、PAC3の沖縄配備について、「幸い沖縄については米軍がPAC3を置いてくれた。沖縄の方までは今のわが国の予算の中で追いつかない点を先にやってくれた。むしろ沖縄の人は喜んでもらいたいと私は思っている」などと述べた。

沖縄国際大学の富川盛武教授(経済学)は26日までに、在日米軍再編が沖縄県経済に与える影響の試算をまとめた。1年で再編が進んだ場合、波及を含めた生産額は約842億円、付加価値額は約551億円がそれぞれ減少となり、金融・保険・不動産、商業、サービス事業など第3次産業への影響が大きいとしている。軍用地料による影響では、嘉手納基地以南の返還(キャンプ・瑞慶覧は2分の1の返還を前提)による地料の減少が約24%で、この減少が消費経路を経て生産に与える影響は約147億円、付加価値額は約94億円とそれぞれ減少。海兵隊のグアムへの8000人移転の影響では、軍人・軍属による消費需要の減少額を基に推計すると、生産額の減少は約564億円、付加価値の減は約374億円などとなった。富川教授は「沖縄経済は依然として米軍基地に依存しており、再編のインパクトは大きい。今後は県経済の縮小均衡を避けるために、基地の跡地利用の促進、産業創出が課題」と指摘している。

●10月27日

久間防衛庁長官は27日午前の閣議後会見で、PAC3の嘉手納基地などへの配備に関する「沖縄の人は喜んでほしい」との発言に沖縄県内で批判の声が上がっていることについて「東京の周りの(埼玉の航空自衛隊)入間(基地)に早く設置したいが、どう早くやっても来年の3月。という意味では(沖縄に)早く入ったのは非常にいいこと」と述べ、意義を強調した。嘉手納基地の機能強化につながるのと批判には「機能は今までと変わらないわ

けだから心配いらぬ。攻撃的な武器であるかのように誤解している。防御するために、フェンスを1メートルから3メートルにするようなものと思えばいい」と述べた。

●10月31日

嘉手納弾薬庫地区内の旧東恩納弾薬庫(沖縄市池原)地区の土地約58ヘクタールが31日、米軍から沖縄市と103人の地権者に返還された。国は26日付で、継続使用に向けた賃貸借契約の完結通知を市と地権者に発送しており、11月1日から陸上自衛隊が継続使用し、小銃射撃場の建設を進める。一方、返還地の7割を占める市有地について沖縄市の東門美津子市長は「自衛隊の継続使用は基地の機能強化につながる。通知に同意せず引き続き返還を求めると契約拒否の姿勢を崩さない。ただ、継続使用を求める民有地分の地権者103人は再三、国に継続使用を求めてきた。国は返還される土地に、300メートルの射程に対応する約9000平方メートルの屋根付き射撃場と管理棟を建設し、陸上自衛隊が小銃と拳銃の訓練で年間170日、延べ射撃人数約7000人の使用を想定している。陸上自衛隊第一混成団の國場進広報室長は「県内には長い射程の射撃場がなく、検定射撃を年5回は九州で受けてきた」と説明。「1回に付き1週間は約200人の隊員が沖縄を離れるため、万が一沖縄で何かが起こったとき、防衛上の問題や災害に対応できない懸念もあった。射撃場が完成すれば問題は解決する」と話す。4月の市長選で自衛隊の継続使用に反対を表明して当選した東門市長は「農業を中心とした跡地利用をしたい」と訴え、就任後すぐに予約締結の撤回を国に伝達。9月には再度、国に継続使用の拒否を表明し、返還後は軍転特措法に基づく環境汚染調査の実施などを求める意見書を提出した。また、射撃場建設に11月以降の賃料を拒否する方針を固め、那覇防衛施設局に通知した。沖縄市の上原秀雄企画部長は「国からは(自衛隊による継続使用に向けた賃貸借契約である)完結通知後、何の連絡もない」と説明。「国と賃料などの協議もなく、申し入れた疑義への回答もまだない。市が完結通知に同意していない中で、国がどう動くかを待って、今後の市の対応を考えたい」と話した。一方、那覇防衛施設局は「既に建設工事を契約し、計画通知を沖縄市へ提出した上で6月16日付で確認済証を得ている」としており、近く射撃場の建設工事に着手する方針だ。着手のタイミングについては、知事選への政治的影響も考慮した上で「知事選後、なるべく速やかに着手する」考えだ。

●11月1日

米海軍・海兵隊の飛行場安全基準であるAICUZプログラム(航空施設周辺地域の土地利用に関する指針)で、滑走路の両端から4500メートルは住宅や公共施設建設が制限されるとの規定が設けられ、住宅に囲まれた普天間飛行場は指針に反していることが1日、宜野湾市の調べで分かった。米本国内で飛行場周辺に利用禁止区域があることは分かっていたが、範囲を示した安全指針が明らかになったのは初めて。同指針では滑走路の端から900メートルを航空機事故が起きる可能性が最大だとして土地利用を禁じた「クリアゾーン」と設定。それから3600メートルを事故の危険性がある「事故危険区域」としている。同指針に当てはめると普天間飛行場は北は北中城村、南は浦添市まで危険区域に含まれる。伊波洋一宜野湾市長は記者会見し、普天間飛行場を「住民の安全と生命を無視した基地運用だ」と批判。普天間飛行場の「安全不適合」を宣言し、日米両政府に同飛行場の即時閉鎖・返還を求めるとともに、今後法的措置も検討するとした。AICUZは2002年に海軍作戦本部司令官と海兵隊司令官から示され、滑走路の長さや固定翼機の運用回数を目安に利用禁止区域の延長を定めている。クリアゾーンには建物は造れず、事故危険区域にも住宅や学校、病院などは適さない。米太平洋軍が作成した米軍再編に基づくグアム・アングダーセン飛行場の整備計画でも同基準が盛り込まれているが、海外米軍施設は「受け入れ国の政策を支援することになる場合は行うことができる」とし、適用は強制されていない。伊波市長はキャンプ・シュワブへの同飛行場移設に対して「狭い沖縄で新たな基地建設は困難。グアムには海兵隊員とその家族で1万8000人規模の基地が造られる予定で、普天間飛行場の移設は十分可能」とし、普天間飛行場の08年までの返還に取り組むと述べた。

●11月4日

うるま市勝連の米軍ホワイトビーチ沖で、先月20日ごろから米陸軍と海兵隊の事前集積艦が断続的に停泊を続けている。長崎県の米軍佐世保基地でも事前集積艦の入港が相次いでおり、米軍戦略に詳しい佐世保軍事問題研究会の篠崎正人事務局長は「10月9日の北朝鮮による核実験以降、米軍は朝鮮半島陸上での戦闘や国連制裁が進んだ際の大規模な難民の流出などに備え、急速展開を念頭に置いて海上補給の拠点となる沖縄、佐世保で待機を続けているのではないか」と分析している。事前集積艦は戦車や武器、弾薬、兵士の野営セットや医療コンテナなど戦闘に必要なあらゆる物資を積載、戦地へ投入する艦船。ホワイトビーチには10月20日ごろ以降、陸軍のワトソン級の事前集積艦(62,968トン)が一時的に姿を消すこともあるがほぼ常に同港沖に停泊を続けている。さらに先月25日、今月4日には、海兵隊の事前集積艦ルイス・ホーガ、ハリー・マーティンがそれぞれ沖合停泊

しているのが確認された。篠崎氏によると、長崎県の米軍佐世保基地でもこの間、この3隻を含む事前集積艦の入港が相次いでいるという。

●11月5日

普天間飛行場の代替施設として、日米が合意したキャンプ・シュワブ沿岸部にV字形に造る2本の滑走路をめぐり、米軍機の双方向からの進入・着陸を可能にするため、米側が「進入灯」をそれぞれの滑走路の南北に計4カ所設置するよう要求していることが5日、分かった。進入ルートを2つから4つに増やす措置で、南西部の宜野座村や北東部にある名護市の集落上空を米軍機が飛行できるようになる。日本政府は4月の名護市との協議で、海上だけの飛行にとどめようと、北風の場合は原則として南側を離陸、北側を着陸専用、南風の場合はその逆とすることを前提にV字形滑走路案で合意した。しかし5月の在日米軍再編の最終報告では飛行ルートについて言及されなかった。

●11月6日

防衛庁首脳は6日、普天間飛行場のキャンプ・シュワブ沿岸部への移設で米側が、滑走路2本の双方向から進入・着陸を想定して4カ所に進入灯の設置を求めていることについて、緊急時の固定翼機の計器飛行に限って双方向飛行はあり得るとの認識を示した。その上で通常は、滑走路を離陸用と着陸用に分ける原則に変わりはないと説明した。進入灯の設置要求を容認するかどうかは「方向性は何ら決まっていない」とし、協議を継続する考えを強調した。

普天間基地所属で、イラク戦争にも投入された海兵隊強襲作戦の主力をになう輸送ヘリコプターCH46シーナイトの部品に、法律で核燃料物質・放射性物質として規制を受ける劣化ウランが使用されていることが米軍資料で6日までに明らかになった。同ヘリの劣化ウラン使用は、航空機の放射性物質を管理する米空軍ライトパターソン基地第88航空団環境管理部の公式ホームページ上の「航空機放射性物質データベース」に記載されていた。データベースは、同ヘリの羽根(ローター)のバランス確保のために劣化ウランを使用していると明記している。

●11月8日

金武町の米軍キャンプ・ハンセン内レンジ4の米陸軍都市型戦闘訓練施設の射撃用建物で8日午前、建物突入訓練中とみられる米兵が銃口を住宅地側に向けているのが確認された。弾倉は付いていなかったもよう。訓練を監視した県平和委員会の大久保康裕事務局長によると、米陸軍兵6人と指導官とみられる1人が1組になり、戦闘訓練施設の中の射撃用建物で、突入訓練に備えて周囲を警戒する様子で銃口を四方八方に向けていた。銃はM4カービン銃とみられる。

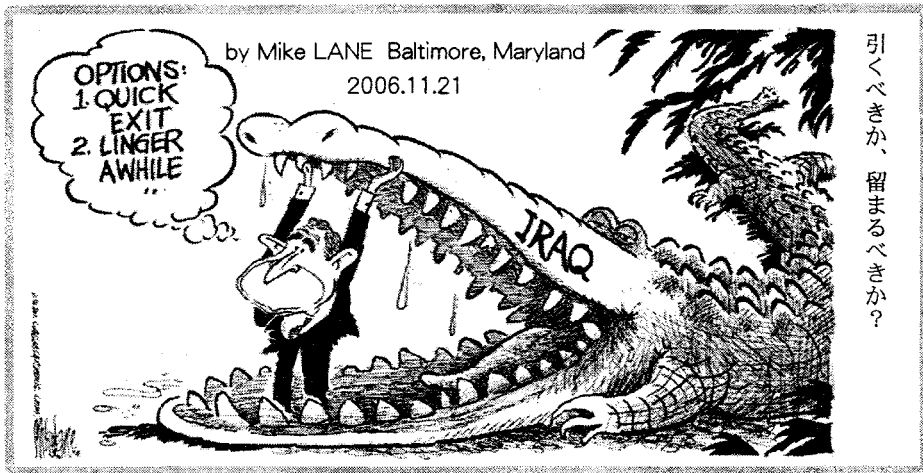
普天間飛行場での2004年の米軍ヘリ墜落事故で、墜落機のCH53D大型輸送ヘリで使われていた放射性物質ストロンチウム90が「焼失した」とされた問題に関連して、自衛隊機や民間航空機の放射性物質使用を規制する文部科学省が、米軍機の使用実態を把握できないでいることが8日までに分かった。自衛隊機や民間機は届け出義務などがあるが、日米地位協定により米軍は対象外となっているためだ。県は8日、米軍機の放射性物質使用状況を那覇防衛施設局を通じて照会した。宜野湾市も米側に対して情報開示を求める姿勢だ。04年の事故の際、県は米軍機の危険物積載情報がないとして改善を求めている。

●11月10日

普天間飛行場代替施設のV字形滑走路に双方向から着陸できるよう米側が進入灯の設置を求めていることに対して島袋吉和名護市長が「基本合意に反する」と批判したことについて、防衛施設庁の渡部厚施設部長は10日午後の記者会見で、緊急時の双方向からの着陸は「基本合意書には反しない」との認識を示した。島袋名護市長は同日、那覇防衛施設局に対し、双方向着陸は容認できないとの考えを申し入れた。

●11月13日

普天間飛行場の移設問題で、米側がV字形滑走路予定地に近接する兵舎をシュワブ内に新設するのは困難と判断、キャンプ・ハンセンや辺野古弾薬庫に移設する案を日本側に提起していたことが13日分かった。航空法は滑走路からの距離や角度に応じて周辺の建築物の高さを規制しているが、在日米軍が使う飛行場は日米地位協定に基づき、航空法の一部規定の適用が除外されている。米側は今年10月の協議で、シュワブ内で候補地となりうる場所に兵舎を新設した場合、飛行の安全性確保の観点から航空法の適用除外が認められる可能性は極めて低いと主張。代替案として(1)シュワブ北側に隣接する辺野古弾薬庫を、より防護能力が高い「高性能弾薬庫」に建て替えてその周辺に兵舎を建設する(2)新設せずにシュワブ内にある他の施設を整理して兵舎を確保できるか再検討する、を提示した。ただ米側は第2案について時間がかかり非現実的とみており、最終的な選択肢としてキャンプ・ハンセンへの移設を持ち出した。

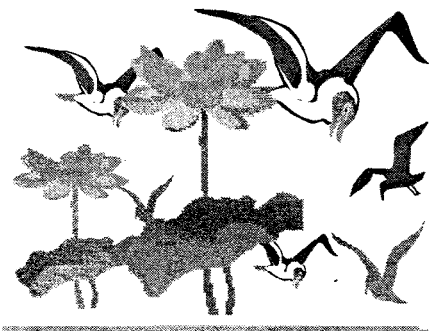


引くべきか、留まるべきか？

POLITICAL CARTOONS

編集室から

●11月19日の沖縄県知事選結果について、沖縄県民にとって「基地か経済か」の選択ではない」と目取間さんは言う。「基地か経済か」の問いをつきつけているのは「本土」のひとつと、政府だ。基地はいらない、どこにでも、という事で今号の特集は、米軍再編反対の活動報告を神奈川から。



会計報告 (06.10.22 ~ 11.25)

【収入】

1	先月からの繰越	453,740
2	当期の収入	3,000
(1)会費収入		
	①維持団体	0
	②維持個人	0
	③参加団体	0
	④参加個人	0
	⑤通信会員	3,000
(2)カンパ収入		
	(3)運動収入	0
	(4)預金利子、資料収入	0

【支出】

1	当期の支出	80,225
	(1)郵送費	34,536
	(2)文具・備品	31,514
	(3)振り込み手数料等	355
	(4)分担金	12,000
	(5)ロッカー代	0
	(6)雑費	1,820

【残高】

	次月へ繰越	376,515
--	-------	---------

月刊「キャッチピース」発行●脱軍備ネットワーク・キャッチピース 編集●キャッチピース編集委員会  
 連絡先●232-0065 横浜市港北区高田東3-38-15 田巻一彦方 電話・fax●045-531-1341 kz-tmk@j03.itscom.net  
 郵便振替口座●00160-7-136148 「キャッチピース」 定価●100円 (通信会員年間3,000円)